平成１７年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

（整理番号） 7 ※記入不要	提案機関名	農業振興課

要望問題
直売向け花きの検索、及び直売用花きの生産に適した栽培法の開発

要望問題の内容　【　背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）】

１、背景
　市場出荷における花きの販売価格が低迷する中で、都市、近郊農業の特徴を生かして、直売へ新たに取り組んだり、直売のウエイトを増加させようとする動きが見られる。直売においてより効率的に利益が得られるように、適する品目の選定、栽培法の開発が望まれる。
　全県、直売農家２００戸

２、要望内容
(1)直売向け切り花、鉢物、花壇苗の検索
(2)短径多収、作期拡大など直売に適した生産技術の開発

解決希望年限	①１年以内　②２～３年以内　③４～５年以内　④５～１０年以内
研究対応区分	①研究所対応　②委託研究　③共同研究　④その他
対応を希望する研究機関名	①農業総合研究所（ ②根府川試験場　③三浦試験場　④津久井試験場 ） ⑤畜産研究所　⑥水産総合研究所（ ⑦内水面試験場　⑧相模湾試験場 ） ⑨自然環境保全センター

※　ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業総合研究所
部　　署：生産技術部	
対応区分	①実施　②実施中　③継続検討　④実施済　⑤調査指導対応　⑥現地対応　⑦実施不可

試験研究課題名　(①、②、④の場合)
新規花きの検索および栽培法の確立

対応の内容等
本県の花き生産は、経営規模が小さく、個選･個販が主流で、大型市場への対応が困難になりつつあります。近年は消費地に近いという利便性から、市場出荷のほかに直売を行う生産者の割合が増加していますが、花きの単価上昇が望めない現状では、単位面積あたりの収量をあげる技術と、生産物をより有利に販売し収益増を図ることが重要と思われます。
要望にあげられた品目の選定、栽培法の開発の他に、栽培農家の経営面積（施設と露地を含んだ栽培可能な面積)、出荷規格(市場出荷の規格と直売の規格)、、市場出荷と直売の比率なども考慮しなければならず、幅広く検討する必要があると思われます。
現在直売を行っている生産者の実態と消費者の意向等を調査し、上記課題の中で取り組んでいきたいと考えますので、有望品目の選定に当たってはご協力をお願いします。

解決予定年限	①１年以内　②２～３年以内　③４～５年以内　④５～１０年以内
備　考	